

1. 親子のコミュニケーション



お子さんとの会話を大切に

家族団欒の場所や時間がありますか？

お子さんの好きな事。好きな食べ物。好きなタレントを知っていますか？

お子さんの将来について考え、話し合ったことがありますか？

中学生は思春期の真っ只中、心身が大きくゆれています。心や行動の変化を親としてしっかりつかんでおくことが大切です。日常の親子の会話を大切にしながらコミュニケーションをとってみてはいかがでしょうか？心から耳を傾けるということは、相手を大切にすることにつながります。いつもお子さんの話をきちんと受け止める気持ちがあれば、会話が成り立ち、よりよい親子関係を築いていくことができるようになります。

態度	・今、自分がやっていることをやめ、お子さんの顔をよく見る。最後まで聞く。
言葉	・あいづちを打つ。お子さんの言葉を繰り返す。(いやだ→いやだったんだね。)
質問する	・(それからどうしたの?) ちよっと、試してみてもいいでしょうか。

お子さんの考えを認めていますか？

自分の意見や考え、都合を押しつけていませんか？

お子さんのいうことを聞いてあげていますか？

お子さんの気持ち・考えを受け止めていますか？

結果ではなく、努力の過程を認めてあげていますか？



60点のテストを持ってきた子どもに対して「60点なんて勉強してない証拠よ！」と叱る」「60点だったの。次は70点めざそうね。」と目標を示す”さて、どちらが子どもを伸ばすことにつながっていくのでしょうか。

親子のコミュニケーションは、子どもの気持ちを受け止めることからスタートします。努力していること、頑張ったことは家族みんなでほめてあげましょう。時には親として毅然とした態度で、しっかりと叱ることも必要です。人としての生き方をいっしょに考え、子どもといっしょに歩む親でありたいものですね。

家庭が家族みんなのよい所になっていますか？

「行ってきます」「ただいま」など、あいさつは家族全員で！

家庭は『ほっとできる心の拠り所』、愛情による絆で結ばれた触れ合いの場

家庭教育は子どもの基本的な生活習慣・生活能力、健康な心身の育成、豊かな情操、思いやりや善悪の判断などの基本的な倫理観や社会的マナーなどの「生きる力」の根本的な資質や能力を育てる出発点です。家庭が家族みんなの心の拠り所として心地良い場であるためにも、個々の家庭でやれることを再点検してみましょう。まずはあいさつからはじめてみませんか。

